常磐炭田多賀地域のヘリウム資源について

牧	真 —*	本 島	公 司*	佐々木	実**
比留川	貴*	永 田	松 三*	影 山 邦	阝夫**

Exploration for Helium Resources in the Taga Region of Joban Coal Field

By

Shin'ichi Maki, Koji Motojima, Minoru Sasaki, Takashi Hirukawa, Syözö Nagata & Kunio Kageyama

Abstract

Exploration for helium resources in the Taga region of Jöban coal field was done in 1964, and this work also aimed at choosing the site of test boring for helium resources in the region.

A summary of the results is shown below.

The concentration of helium in CH_4 type natural gas in the northern part ranges from 0.01% to 0.034% in volume, and that in N₂ and N₂- CH_4 type natural gases in the southern part ranges from 0.001% to 0.051%. The productive amount of N₂ and N₂- CH_4 type gases is less than that of CH_4 type gas.

The distribution of helium in the natural gases of the region might be mainly controlled by mixing the N_2 type gas highly concentrated with helium and generated from the pre-Tertiary basement rocks with the ordinary coal bed gas in the overlying coal bearing formations. Therefore, reverse interrelation has been observed between the helium concentration and the productive amount of coal field gas.

According to the data on the productivity of gas and the concentration of helium, the authors can hardly expect the existence of helium gas deposits of economic scale in the region.

The test boring site was located at Takado in Takahagi City, where natural gas with high concentration of helium might exist.

要 旨

この調査・研究の目的は、常磐炭田多賀地域のヘリウ ム資源の状況を地質学的ならびに地球化学的に明らかに することと、ヘリウム資源調査のための深度 800mの試 錐孔の位置を撰定することである。

これらの目的を達するために、北茨城市高井地区から 日立市北部にわたる地域に対して、ヘリウムを対象とし た地表からの調査・研究と、同じ地域内にある5つの炭 鉱、すなわち向洋・中郷・磯原・重内・櫛形の諸炭鉱の 坑内における地質・地化学調査を行なった。えられた調 査・研究結果を要約すると下記のようである。

1) 調査地域内で遊離ガスが認められるのは中郷以北

* 技術部 **燃料部 の地区に限られ、この遊離ガスの He 含有量は、地表ガスおよび坑内ガスのいずれにおいても、石城北部地域における炭田ガスの He の含有量とほぼ等しいかやや少なめであって、その量は 0.01~0.028vol. % 程度である。

2) 中郷以南の地区では、地表からは遊離ガスがほとんど認められない。しかし、高萩市の探炭試錐孔から湧 出する地下水の溶存ガス中注1)には、0.104 vol. %の He が認められた。

3) 磯原炭鉱坑内の炭層から産する遊離ガスには He が0.026vol.% および 0.034vol.% 認められ、また向洋 炭鉱坑内のガスでは 0.051vol.%の He が認められた。 また坑内水の溶存ガス中の He 含有量注1)は、磯原炭鉱で 0.000~0.001vol.%、向洋・重内両炭鉱で 0.000~0.01vol.

注1) $\frac{\text{dis. He}}{\text{dis. (O_2 + N_2 + Ar + CH_4 + He)}} \times 100\% \, \overline{c \pi f}.$

%, 中郷炭鉱で tr~0.059vol.% である。

4) 石城北部地域と多賀地域における天然ガスの組成 を比較すると、一般には後者において N_2/He 比が大 き い。すなわち、多賀地域では、ところどころに He 濃度 の高い天然ガスがみられるのであるが、全般的に大気に 由来する N_2 の影響が大きいと判断される。

5) 以上の結果から,常磐炭田地域のHe の立体的分布 を調べる目的で計画された試錐の位置には,炭田ガスに よって比較的希釈されることが少なく,He 高含有ガスの 産出が予想される高萩市高戸区域が適当と考えられる。

6) 試錐調査によって He のあり方の一面が明らかに なると思われるが、常磐石城北部・多賀両地域の調査結 果によると、天然ガスの He 含有量とガス賦存量の間に は、逆相関関係が巨視的に認められ、したがって比較的 He を多く含む天然ガスを産する地域のガス賦存量は少 なく、資源的に大きな He 鉱床の存在は期待できない。 調査当時の常磐炭田全域から産出するガスの総量は約 80,000m³/dと積算されているので、平均 He 含有量を約 0.025vol.%として、常磐炭田全域における現在の He の総産出量(放出量)はおよそ 20m³/d と計算される。

1. 緒 言

炭田ガスは、わが国における可燃性天然ガス資源の重要な部分を占めている。したがって炭田ガス中の He を 調査することは、He の資源調査の面で欠かすことがで きない。

常磐炭田のガス鉱床は、かならずしも大きな規模のも のではないが、典型的な遊離型のガス鉱床であって、ガ スを坑外からボーリングによって採取しやすく、炭田ガ ス鉱床としては、国内でもっとも開発利用されているも のの1つである。このことは採炭におけるガス抜きおよ び保安の面においても好都合である。

昭和36年,平市から北茨城市高井区域に至る範囲の炭 田ガスの組成について調査・研究を行なった結果(牧 ら,1969),この地域の炭田ガス中には比較的均一に, 0.01~0.04 vol.%のヘリウム(He)が含有されているこ とが判明した。また炭田の南部を占める高萩市高戸の探 炭井から産出した天然ガスの分析資料注2)によると,ガス 中に0.59 vol.%のHe が含有され,この値は現在までの わが国における天然ガス分析資料中の最高He 含有量で ある。当地域の炭田ガス中のHe 含有量と、前記した探 炭井でみられたガス中のHe の高含有量との相互関係, さらにHe のありかたなどを究明するためには,He の 立体的分布を調べる必要がある。このため常磐炭田地域

注2) 試料採取:牧野登喜男,分析:永田松三,地質調查所未公表資料

で基盤に達する深度をもつ試錐をうがつことが計画され た。

常磐炭田の炭層は、中粒~粗粒砂岩を主とする石城層 に主として介在し、その上位の浅貝層は主として細粒砂 岩からなっている。さらに浅貝層の上位には泥岩からな る白坂層が分布している。炭田ガスは石城および浅貝の 両砂岩に貯留され、白坂頁岩層がこの地域における主要 な帽岩の役割をなしている。しかし石城・浅貝の両砂岩 は比較的浸透率が低いので、多量の可採ガスは主として 断層封塞帯および基盤岩の潜在隆起の影響による破砕帯 などの裂隙の多い場所に貯留されており、ガスのあり方 からは一種の構造性ガスに属する。

常磐炭田のガスは、上記のような存在状態を呈してい るので、基盤岩中の U,Th の崩壊によって生成し、移動 した He は、比較的容易に上位の炭層ガスに混入が可能 であり、炭田ガス中に均一化されて含有されることが考 えられる。

炭層ガスは、その生成機構に多くの未解決の問題が残 されてはいるが、褐炭から歴青炭の間では石炭化が進む ほどガス質注3)がよくなり、同時にガス量が増大する傾向 が明らかである。石炭化という点では、石城北部地域の 石炭が常磐炭田内ではもっとも進んでいる。これに対し て多賀地域の石炭は、比較的石炭化がおくれており、こ の地域におけるガス量は南部に減少し、とくに高萩以南 ではきわめて量が少ない(これには白坂層の薄化ないし 欠除という現象も原因している)。したがって、多賀地区 では、基磐岩から逸出するやや多くの He を含有するガ スが、炭田ガスによって希釈される割合が少ないので、 比較的高い He の含有量を示す天然ガスが発見されると 考えられる。

この調査の試料採取に協力された平石炭支局,向洋炭 鉱株式会社,大日本炭鉱株式会社磯原鉱,常磐炭鉱株式 会社中郷鉱,重内炭鉱株式会社,櫛形炭鉱株式会社およ び分析室を借用させていただいた常磐煉炭株式会社の関 係各位に厚く感謝の意を表する。

2. 地質概説

本地域を構成している主な地質は、下位から先白堊系 の花崗岩類・角閃片岩類、第三系の白水・湯長谷および 多賀の3層群であり、その一般的分布状況は本地域の西 側に先白堊系が分布し、東方に至るにつれて上記の第三 紀層が順次分布している(第1図参照)。

各地層の岩質と層厚は第2図に、本地域に発達する主 要断層は第1表に示すとおりである。

注3) 天然ガス中に占める CH4 の割合が大きくなること。



Geological map of Taga region, Jōban coal field and sampling localities of helium survey

地時 質代	層群	累 層	層厚(m)	柱状図	岩相
鮮新世	多賀層		70 ~ 160		凝灰質淤泥岩
崩	群			×	凝灰質砂岩
中新	湯	平 層	0 ~ 180		緑灰色集塊岩質砂岩を挟む黄褐色含染粗粒 青灰色塊状泥岩 砂岩
世由	Æ			3000	砂岩 } 凝灰角碟岩
期	谷	亀 / 尾 層	0 ~ 200		带紫灰色板状頁岩
- 中新世	層	水野谷層	50~100		砂岩·淤泥岩
一前	群	五安層	0~70		黄色細粒砂岩·粗粒砂岩
朋		滝 夾 炭 層	$0 \sim 40$		(炭層) 細粒砂岩からなり薄い炭層を挾む
漸	白	白坂層	0~140		灰色泥岩
	+	浅貝層	70 ~ 1 <i>20</i>		細粒砂岩
	小				礫岩・砂岩・頁岩・石炭の 6 ~ 10 の小輪
新					廻層からなり, 下位の輪廻層中に主要炭層
	-				を挾む
	僧			=== -	
		石城夾炭層	270~300		
+#	群				
	51				(上國)
		L			(本層)
先	8	可武 隈 変 成 岩 巻	ā.	W1+	
墨		火肉生素	~ 至・士 士 届	M++	角閃岩類 /花崗岩類
紀		八八 四 万	시 니 그 / 년	12+ 1	/

第2図 常磐炭田多賀地域地質様式柱状図(松井 寛・佐藤茂による) Geologic columnar section of Taga region, Jōban coal field

第1表 常磐炭田多賀地域における主要断層一覧表 Main faults in Taga region, Jōban coal field

断肩	鬙群	正断	層	走	向	傾	斜	最大: 落差	垂直 (m)	備	考	
팣	潟	平 正断	潟層	Е-	-w	70~ 8	0°N			多賀 る	層群を	切
		井戸 ″	沢	N -	– s			200)±	W側 ほど	落下, 落差小	S
		駒 ″	木	N 45 6	i∼ 50°W	60∼ 70°	sw	100)±			
		山 ″	П	NJ	.0°W	70	°W	180)±			
		松 //	井	Ne	65°W			150)±	SW	側落下	
							(オ	公井 貨	記・佐	藤 茂	による)	

本地域における主要夾炭層は石城夾炭層で,上層・下層 の2枚の炭層を挾有し,走向 NS~N10°E,傾斜 10~13° E を示す。

前述の5炭鉱におけるこれらの炭層の炭(生)と石城夾炭 層の岩質は第3図のようである。またこれらの石炭はい ずれも JIS 石炭分類の褐炭 F₁ に属する。

3. 調査方法および試料採取測点

調査は予察調査と本調査とにわけられる。予察調査 は,昭和39年2月10日から2月16日までの7日間,向洋炭 鉱株式会社向洋鉱と常磐炭鉱株式会社茨城鉱業所中郷鉱 の坑内で行なった。この調査に続く本調査は,同年6月 16日から7月4日の19日の期間に行なわれ,その調査地 域は北茨城市から日立市北部に至り,調査方法として地 質鉱床・地表地化学的手法を用い,さらに大日本炭鉱株 式会社磯原鉱,重内炭鉱株式会社重内鉱および櫛形炭鉱 株式会社櫛形鉱においては坑内調査法を併用した。これ ら調査ならびに作業の分担は次の通りである。

予察調査	牧真一・佐々木実
本調査	
坑内調査	佐々木実・永田松三
地質鉱床調査	佐々木実・本島公司・影山邦夫
地表地化学調査	牧 真一・本島公司・比留川貴・

地質調査所月報(第21巻第5号)



第3図 櫛形・向洋・中郷・磯原炭鉱における 石城夾炭層地質柱状図

Geologic columnar sections of Iwaki coal bearing formation at Kushigata, Köyo, Nakagō and Isohara coal mines, Jōban coal field

		永田松三・影山邦夫
地下水	分析	比留川貴・牧 真一
ガスグ	分析	永田松三
総	括	牧真一

3.1 調查方法

地質鉱床調査では、主としてガスを産出する坑井、ガ ス徴候地および坑内試料採取場所などの測点地質(ポイ ント・ジオロジー)ならびにその地点がもっているガス 鉱床との関係などについて調べた。

地表地化学調査では,調査地域内にあるガス坑井,探 炭井,ガス徴候地および深井戸から産出するガスおよび 地下水の産状,ガス組成,地下水成分および地下水溶存 ガスを調べ,ガスの分布,ガス中の He の占める割合な どから He の産出機構について考察を行なった。 坊内調査はほぼ地表地化学調査と同じ内容 で 行 な っ た。

なお本調査では現地の分析室にガスクロマトグラフ2 台を設置し,採取した天然ガスおよび地下水の溶存ガス について, He, H₂, CH₄, N₂, O₂, CO₂ を分析し, これ



第4図 向洋炭鉱坑内および試料採取位置図 Sampling localities in Kōyo coal mine



第5図 中郷炭鉱坑内および試料採取位置図 Sampling localities in Nakagō coal mine

原た。

らの分析結果によって重点調査地域を現地で撰択できる ようにした。

3.2 試料採取測点

地表の試料採取位置を第1図に、また各炭鉱坑内試料 の採取位置を第4~8図に示した。

試料採取測点の内訳は次のようである。









地表試料	50測点
地表ガス徴候	14測点
ガス井,探炭井,堀抜井	33測点
湧水	3 測点
坑内試料	
向洋炭鉱	12測点
中郷炭鉱	13測点
磯原炭鉱	12測点
重内炭鉱	3 測点
櫛形炭鉱	1 測点



第8図 櫛形炭鉱坑内および試料採取位置図 Sampling localities in Kushigata coal mine

4. 調査結果

4.1 坑内調査

坑内調査の主眼点を,石城夾炭層中に挾在される石炭 層付近および炭層と基盤岩との間から湧出する天然ガス に含まれる He と,これらから湧出する地下水の溶存ガ スに含まれる He においた。坑内で遊離ガスとして採取 できた天然ガスの試料は,向洋炭鉱で1,磯原炭鉱の2 と合わせて3つにすぎない。

4.1.1 遊離ガス

向洋炭鉱坑内から採取した唯一の遊離ガスは,第2表 の No. 5 試料で,炭層の下位から湧出する N₂ 型のガス である。He は 0.051vol.% 含まれ, N₂/He は 1,950, N₂/ Ar は414で, N₂/Ar の値が大きいことから,このガスは 大部分が基盤岩から移動して来たものと考えられるが, ただ N₂/He が大きく,ガス中に占める He の割合が少な い特徴がある。

磯原炭鉱坑内から採取した2つのガス試料は、いずれ も炭層の下位から湧出して、CH4型に属し、Heの含有

13-(313)

地質調查所月報(第21巻第5号)

第2表 常磐炭田多賀地域向洋炭鉱・常磐炭 Analytical data of coal mine waters from

番号	採	取	場	所	深 度 (海水準) (^{海水準})		7 	k) 1	· · · · · · ·	水 1 (k <i>l</i> /d	量)	、 温 (℃)		水	Ø	産	状	pH	HCO_{s}^{-}
1	向洋炭	鉱本卸坪	ሾ		-195	本	層	下	位	89	96	28.4	湯礼	ち有!),出7	水のもの)	7.4	172
2	"	人道水	平坑 2	号ダム	-209		/	<i>"</i>		60)4	29.5			"			8.8	129
3	"	第2斜	坑右2	片クロス	-360	5	番層	暑 上	位	1	2	28.5	古	洞	水			7.2	634
4	"	第1水	平坑		-303	本	層	下	位	4	13	26.2	{					8.8	190
5	"	第1斜	坑排気	〔卸	-335		/	"]	13	28.8	ガン	ス試米	中のみ			_	-
6	"	"	左3	3 片	-463	5	番屑	鬙 上	位	69	94	33	少士	きの 7	占洞水注	毘入断層	帯	7.2	191
7	"	"	左 1 クロ	, 片8割2	-481	本	層	F	位	16	53	34.5	H_2	S 臭ī	与洞水			7.2	907
8	"	第一斜:	坑左2	2 月	-429	5	番屌	層 上	位		14	27	Fe	⊃ ₈ 多	し古罪	同水		6.8	111
9	"	"	右4	片	-406	本	層	下	位	32	27	29	古	洞	水			7.0	673
10	"	"	右]	「片ポンプ	-250		,	"		22	29	29	大音	部分と	出水の	もの			-
11	"	中継卸	入気余	料坑	-339		,	"		65	56	30						8.9	145
12	"	第1斜	坑巻掛	易裏	-315		,	"		15	36	28	出7	水ので	らの			7.4	243
15	中郷鉱	「坪下水平	坑		-325	上	層	F	位	10)4	25	ボ・	- "	ノグ孔:	から湯花	2(白色)	8.4	482
16	"	北斜坑 5	80m_	上添	-429	本	層	下	位	2, 19	28	34	断	層	帯			7.5	62
17	"	北水平坑	連		-321		,	"		20	51	27.5	5					7.3	117
18	"	北斜坑巻	裹		-305	本	層打	采掘	跡	1,6	35	22	古	同水,	ほと	んど地表	 長水	7.2	917
19	"	南水平坑	連		-322	上	層上	位8	1 m		19	25						8.6	6 404
20	"	150 m 1	计上添		-351	本	層下	位1	7m		10	26.5	断	層	帯			7.2	2 89
21	"	150m 2 長	于下添		-408	本	層	下	位	4	46	33.4	留7	水,ī	与洞水	少量混刀		7.1	466
22	"	南斜坑連	300 /	〃目抜	-407	E	層上	:位3	$7 \mathrm{m}$		1	28	滴	下	水			8.4	474
23	"	新坑詰			-341		//	8	()m		4	24	断	層	帯			8.5	846
24	"	南斜坑 5	70m_	上添	-444	本	層	下	位		78	27.8	3	"				7.9	9 43
25	"	"	-	下添	-510			//		1,4	40	36.7	ボ・	- リ:	ング孔	から流出	Ц	7.8	3 591
26	"	"	ì	重水平部	-480	上	層	上	位		10	34.0)ボ・	- y :	ング孔	から断層	膏帯	8.0	400
27	"	"		"	-480	Ŀ	層上	:位8	0 m		20	28.7	7					8.1	305
т	, Jo 5 诸	な離せる	-Te%	Ar% 0.	, 0/ CH.	07	N. (o/ 1	No/H	Noll	\r \r								

 0.5 $\mathfrak{M}\mathfrak{m}\mathfrak{n}\mathfrak{n}\mathfrak{n}$ He% Ar% $O_2\%$ $CH_4\%$ $N_2\%$ N_2/He N_2/Ar

 0.051
 0.24
 0.25
 0.19
 99.28
 1,950
 414

量は,それぞれ 0.026vol.% と 0.034vol.% で,その N_2 /He は 224および 245となり,この値は常盤炭田の石城 北部地域の炭田ガスで得られた N_2 /He とほぼ等しい。

4.1.2 坑内水

坑内水の分析値は、向洋・中郷両炭鉱については第2 表に、磯原・重内および櫛形の3炭鉱については第3表 に示した。

これらの坑内水は,各炭層の地表からの賦存深度によ ってそれぞれ特徴が見られる。すなわち磯原炭鉱以南で は西部地域に基盤岩の花崗岩・片岩が露出しており,東 方に至るにつれて炭層の深度が増加する単斜構造であっ て,このような地質構造では,夾炭層は西部地域ほど天水 による影響が大きく,酸化されやすい条件を備えている。

各坑内水の Cl-の濃度変化は,磯原炭鉱で 900~7,500 mg/l,中郷炭鉱で 28~700 mg/l,重内炭鉱で 100 mg/l前

後,向洋・櫛形両炭鉱では 100 mg/l 以下であって, Cl-は磯原炭鉱→中郷炭鉱→重内炭鉱→向洋・櫛形両炭鉱の 順に減少している。また SO_4^{2-} は磯原炭鉱では少なく, 他の炭鉱では大部分が 1,000 mg/l 以上と多い。くわえ て,磯原炭鉱では Ca^{2+}/Mg^{2+} も大きいことから,ここ の坑内水はいわゆる閉じた系に属する海成堆積物の化石 水の性質をそなえていると判断される。

4.1.3 坑内水の溶存ガス

重内・中郷・向洋の3炭鉱における坑内水の溶存ガス は、N₂型に属し、He を $0.001 \sim 0.058$ vol.% 含有してい る。一方磯原炭鉱における坑内水の溶存ガスは、CH₄-N₂型に属し、その He 含有は $0.000 \sim 0.00n$ vol.% で、 きわめて He が少ない。

4.2 地表調査

地表調査の範囲は、北茨城市高井付近から日立市北部に

常磐炭田多賀地域のヘリウム資源について(牧・本島・佐々木・比留川・永田・影山)

鉱中郷鉱坑内水分析表(調查,1964年)

Kōyo mine and Nakagō mine in Taga region, Jōban coal field

freeCO	1								[[]	
$\operatorname{or}\mathrm{CO}_{2}^{2^{-}}$	Cl-	SO_4^{2-}	NH ⁺ ₄ -N	Ca ²⁺	Mg^{2} +	$Ca^{2+}/$	dis. gas	dis. O_2	dis. N_2	dis. Ar	dis. CH_4	dis. He	dis. He	
(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	Mg	(ml/l)	(m <i>l/l</i>)	(ml/l)	(ml/l)	(ml/l)	(ml/l)	(vol. %)	
4.3	12	232	tr	3.9	5.2	0.75	17.52	1.94	14.776	0.399	0.405	0.0006	0.0034	
CO ₈ 12	10	82	0.09	3.0	2.0	1.5	19.25	1.44	16.694	0.443	0.673	tr		
26	69	3,100	0.10	34.2	26.6	1.3	17.72	5.57	11.736	0.344	0.067	0.000		
CO ₃ 21	24	1,320	0.10	6.0	3.5	1.7	18.75	0.88	17.400	0.431	0.039	0.0017	0.0091	
			—				_	—		_		_		ガス分析 値欄外
13	83	2,480	0.08	15.0		1.5	16.20	2.56	12.557	0.371	0.712	0.0022	0.0136	Inst the 5.1
33	96	2,540	0.13	21		1.3	14.41	1.90	10.785	0.284	1.441	tr		
13	96	4,240	0.13	137		1.9	ļ							
26	71	1,792	0.09	20		1.3								
				-		—	17.22	2.16	13.984	0.422	0.654	0.0012	0.0070	
CO ₃ 12	34	570	0.09	5.0	0.8	6.3	18.60	1.12						
4.3	22	536	0.08	4.1	2.5	1.6	19.13	5.40	13.343	0.387	0.00	tr		
24	153	590	tr	5.0	5.1	1.0	15.75	2.69	12.639	0.395	0.025	0.0005	0.0032	
2.6	139	1,398	tr	97	4.0	24.3	17.01	3.02	13.555	0.333	0.098	0.0048	0.0282	
4.3	123	1,248	0.07	111	6.3	17.6	20.00	0.64	17.561	0.472	1.327	0.0099	0.0495	
22	28	156	0.05	20	8.3	2.4	18.50	0.54	16.624	0.493	0.843	0.0007	0.0038	
CO ₃ 12	169	1,384	0.05	12	8.3	1.4	16.78	5.14	11.313	0.288	0.039	0.0009	0.0054	
2.6	153	1,400	tr	65	8.5	7.6	18.00	5.29	12.324	0.352	0.034	0.00025	0.0014	
	191	1,286	0.26	48	13.7	3.5	18.22	0.71	12.268	0.407	4.835	0.0021	0.0115	
CO ₃ 18	695	614	0.09	18	12.2	1.5	17.05	4.95	11.728	0.343	0.029	tr		
CO ₃ 30	305	22	0.05	3.6	3.7	1.0	18.40	2.74	15.100	0.391	0.169	tr		
2.6	139	2,700	0.07	98	3.8	25.8	14.95	3.18	3			0.0039	0.0261	
8.7	154	3,100	0.06	32	9.6	3.3	10.12	0.68	9.084	0.354	0.000	0.0020	0.0198	
4.3	199	1,692	tr	16	3.9	4.1	18.80	0.45	10.289	0.280	7.770	0.011	0.0585	容存ガス
4.3	219	2,580	tr	32	7.8	4.1	12.91	2.43	10.231	0.243	0.006	tr		(70) 184021
No. 26	溶存ガス	K 0.0	58 1.49	2.38	41.40	54.67	. 940	37			1			,

わたる間にあり,この地域内に存在するガス井(ガス抜 試錐孔),探炭井(探炭試錐孔),露頭および堀抜井戸から ガスと地下水の試料を採取した。これら採取試料の分析 値を第4表に示す。

4.2.1 遊離ガス

調査地域内では、調査当時、小野矢指と関口を結ぶ線 の北側には各所にガスの露頭ならびに探炭井およびガス 井が存在していたが、この線以南には遊離ガスは認めら れていない。しかし約10年前(1956)に行なわれた井島 信五郎らの調査・研究によると、高萩市周辺でもガス徴 の存在が報告されている。また前記の高萩市高戸の探炭 井注4)(No. 128 号井)からも CH₄-N₂ 型のガスの湧出が 記録されている。

採取した遊離ガスの数多くは CH₄ が 85vol.% 以上含 注4) 牧野登喜男未発表資料(地質調査所) まれる CH₄ 型に属し, さらに, CH₄ を 95vol.% 前後も 含有する CH₄に対して高濃度の CH₄ 型の天然ガスがそ の中の大部分を占めている。次いで CH₄—N₂ 型と N₂ 型 のガスがそれぞれ 3 カ所で認められた。上述したすべて の遊離ガスは, He を 0.001vol.% 以上含有しているが, CH₄ を多く含む CH₄ 型のガスには, He を 0.01~0.03 vol.%含有するものが多い。これらのガスの He 含有量 を常磐炭田石城北部地域の炭田ガス中の He 含有量と比 較すこと,等しいか,やや少なく,一方 N₂/He はやや 大きい。

また試料 No. 46 の N₂ 型のガスを除くと、N₂ 量の増加と共に He 含有量は減少している。

 CH_4 90% 以上の天然ガスには、 CO_2 が1%以下でその含有量は少なく、さらに H_2 もわずかではあるが存在するなどのことから判断すると、これら天然ガスの CH_4

15-(315)

地質調查所月報 (第21巻第5号)

第3表 磯 原 炭 鉱 • 重 内 炭 鉱 • 櫛 形 炭 鉱

Analytical data of coal mine gases and coal

試料		含水層	深度	水温	水量	ガス量	5-P	**1 +**	***	ì	遊離ガ	ス組	成 (v	ol. %)		$N_2/$
番号	試科採取箇所	層位	(海水準 m)	(°C)	(k <i>l</i> /d)	(m ⁸ /d)	邧	147 1里	頬	He	H_2	O ₂	N_2	CH_4	CO_2	He
1	磯原炭鉱第2斜坑左 3片	本層上	-548	34.7	69.1		古	洞	水							
2	磯原炭鉱第2斜坑左 3片	"	-548	34.3	3.5			"								
3	磯原炭鉱第2斜坑右 3片	本層下	-543	28.2	0.7	0.2	破砕	帯,化	石水	0.026	0.003	0.33	5.82	93.73	0.12	224
4	磯原炭鉱第2斜坑右 3片	"	-541	29.0	0.7			"								
5	磯原炭鉱第2斜坑右 1片	本層上	-494	33.6	17.3		古	洞	水							
6	磯原炭鉱第2斜坑連 卸切替	"	-559	33.7	1.7		化	石	水							
7	磯原炭鉱第2斜坑連 卸切替	本層下	-559			少量	破	砕	帯	0.034	0.00n	0. 54	8.34	90.73	0.39	245
8	磯原炭鉱第2斜坑右 3片揚	本層上	-525	29.3	小滴水 20カ所		化石	水~古	洞水							
9	磯原炭鉱第2斜坑右 3片ゲート	"	-526	33.0	136.1		破砕 (化7	·帯, 酒 石水 + う	ē合水 淡水)							
10	磯原炭鉱第2斜坑右 2片	"	-539	27.7	2.9		古	洞	水							
11	磯原炭鉱第2斜坑第 1斜坑連卸	"	-478	32.5	49.4			"								
12	磯原炭鉱第2斜坑1 目抜	上層上	-309	24.5	11.5			"								
13	重内炭鉱北斜坑左3 片	本層上	-228	25.6	1.7			"								
14	重内炭鉱右電卸左2 坑	本層下	-388	25.6	1.7	,	化	石	水							
15	重内炭鉱右電卸右4 坑	本層上	-330	26.8	少 量 (留水的)		古	洞	水							
16	櫛形炭鉱第2斜坑左 4片						ļ]	

は、多分石炭の炭化過程で生成された炭層ガスに主として由来し、天然ガスに混じる He の大部分と N_2 , Ar (分析しなかったが)の一部分は基盤岩から移動して、炭層ガスに混入したものと推察される。

4.2.2 地下水

採取した試料の内,2次的汚染のおそれのある試料No. 48(小野矢指)と,ドレン水である試料No.32,33,36, 37(いずれも高井)の分析結果は参考値として表示する にとどめ,一般的考察の際は除くことにした。

pH は 7.2~ 8.9 で中性ないし弱アルカリ性であり, 高萩市以南の地下水は湧水を除くとすべて 8.1以上の弱 アルカリ性を示している。

Cl-はすべて 1,690 mg/l 以下である。浅貝,石城両層 から産出する地下水は,多賀層から産出するものと比較 して Cl- が多い。 HCO_{8}^{-} は 36~515mg/l, NH₄+ は 0.08~5.76 mg/l あ り,その含有量は比較的大きく変化するが両者の間には 第9図に示すようにほとんど相関々係がない。またガス 量とこれら成分との間にも同様に相関関係は認められな い。

 SO_4^{2-} は 1.2~188 mg/lで,一般の地下水^{注5)}と比較し て溶存量は多い。 SO_4^{2-} と NH_4^+ との間には第10図に見 られるような弱い逆相関関係がある。

Ca²⁺ は 0.33~105 mg/*l* で, pH がアルカリ性の地下 水にやや少ない傾向が見られる。

Mg²⁺ は 0.32~18.2 mg/l で, Ca²⁺ に比較 して少な く, したがって Ca²⁺/Mg²⁺ は0.15~13.6の間にあるが,

注5) 一般の地下水水質の参考までに、三宅泰雄による本邦河川水の 化学成分の平均値を示すと次のようである。 Ca²⁺ 10.4mg/l, Mg²⁺ 3.6mg/l, Ca²⁺/Mg²⁺ 2.9, SO4²⁻ 12mg/l

坑内ガスおよび坑内水分析表

mine waters from Isohara, Shigeuchi and Kushigata mines, Jōban coal field

															~					
	溶存	ガ	ス	組	成	$\binom{\text{vol.}}{ml/l}$	%)		_N ₂ /	pH	Cl-	HCO3	CO_3^{2-}	SO_4^{2-}	NH_4^+	Ca_2^+	Mg^{2+}	K+	Na+	Ca^{2+}/Ma^{2+}
Total	He		H ₂	O	2	N_2	CH	4 A			(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	(mg/l)	
$100.004 \\ 23.46$	0.001	1 0. 0.	044	1.4 0.3	41 33	18.11 4.25	79.9 18.7	90.4 60.1	$\frac{5}{1}$ 40.2	2 7.0	6,390	418	0.0	351	3.86	931	22.6			41.2
$\begin{array}{c}100.00\\20.00\end{array}$	0.001	1 0. 0.	. 040 . 008	9. 1.	85 97	40.96 8.19	648.1 9.6	60.9 640.2	9 41.4	6.8	540,5	178	0.0	391	4.86	1,171	63.5			18.4
100.005 22.80	i0.001	1 0. 0.	. 055 . 001	4. 1.	69 07	39.16 8.99	55.1 12.5	.90.9 90.9	1 43. (7.5	53,830	171	0.0	41.6	3.42	339	17.4	20.0	2,210	19.5
100.004 22.42	0.00	$\begin{bmatrix} 0\\ 0_2 \end{bmatrix} 0$. 073 . 016	1. 0.	20 27	28.78 6.45	869.0 515.4	000.9 180.9	¹⁵ 30. :	3 7.4	1,270	348	0.0	15.2	1.05	53.9	4.84			11.1
100.002 17.80	20.00	0 0 0	. 092 . 016	10. 1.	51 87	46.64 8.30	441.6 7.4	541.	2 41.	5 7.0	3,530	888	0.0	27.9	2.91	366	26.6			13.8
100.000 13.23	60.00 0.00	0 0	. 026 . 003	$\frac{26}{3}$	38 49	70.59 9.34) 1. 1 0.	181. 160.	33 38.	5 7.1	72,540	200	0.0	1.4	2.07	168	9.48			17.7
13.82	0.00	0 0	. 031	2.	21					7.5	24,690	135	0.0	41.6	3.56	331	22.2			14.9
100.009 24.80	90.00	n 0 0	. 019 . 004) 1. 0.	41 35	21.4 5.3	676. 218.	530. 980.	59 15 36	4 7. :	34,130	142	0.0	3.0	3.67	376	22.2			16.9
100.002 16.95	2 tr	0 0	. 012	230.	80 22	67.0 11.3	1 0.3 6 0.	301.	$\frac{38}{32}35.$	6 7.3	33,130	663	0.0	741	0.12	361	31.1			11.6
100.004 12.77	$^{4}_{0.00}^{0.00}$	0 0 0 0	. 034 . 004	13. 1.	31 70	80.0 10.2	$ \begin{array}{ccc} 2 & 4. \\ 2 & 0. \\ \end{array} $	452. 570.	19 28 36.	5 7.	1 912	1,018	0.0	156	0.55	88.1	9.88	3		8.9
100.003 15.07	5 tr	0	. 035 . 005	5 4. 5 0.	98 75	70.5 10.6	322. 33.	$ \begin{array}{c} 61 \\ 41 \\ 0. \end{array} $	³⁵ 28	1 6.	5 3,970	343	0.0	316	3.60	403	47.6			8.5
100.000 17.13	0.00	0 0 0 0	. 040) 30. 7 5.	36 20		8 0. 7 0.	381. 060.	74 30 38.	8 8.	3 64.4	618	3 25.4	12,994	0.10	150	39.1			3.8
100.00 17.67	50.01 0.00	$ \begin{array}{c c} 0 \\ 2 \\ 0 \end{array} $	04: 0.00	527. B 4.	45 85	70.2 12.4	9 0. 1 0.	37 1. 07 0.	⁸⁴ 33 38.	1 8.	2 129	322	2 12.3	71,418	0.28	3 25.9	2.42	2 10.	7 873	5 10.7
13. 17	0.00	0 0). 01'	7 0.	75					7.	5 167	490	6 0.0	3,651	1.46	5 183	17.8			10.3
16.10				3.	74					7.	3 69.4	4 16	1 0.0	01,235	0.25	5 7.9	8 3.6	3		2.2

多くは3~9の間に分布し、わが国の一般の地下水と比較するとその値はやや大きい。

4.2.3 地下水の溶存ガス

地下水の溶存ガス組成をガスのタイプという面からみ ると、調査地域の北部では CH₄ 型および CH₄-N₂ 型に なり、南部では N₂ 型になる。北部の CH₄ 型および CH₄-N₂ 型の溶存ガスは、それらに対応する遊離ガス中 には He を含有しているにもかかわらず、1 例を除いて He の 占める割合が 0.001vol. % 以下で、ほとんど He を含有 していない。しかし、南部の高萩市川側にある探炭井跡

(測点 No. 40) から産出する遊離ガスを伴わない地下 水の溶存ガス中には, He が 0.104vol. % 認められ, さ らに南部では他の4 測点でも He がわずかに 検出 され た。

5. 考 察

5.1 坑内のガスおよび地下水

調査地域内における主要炭層は、基盤岩を構成する花 崗岩ないし片岩の上に乗る石城層中に挾在し、基盤岩か ら上位に数m~数10mの位置に賦存している。基盤岩か ら移動する天然ガスの N₂/He 比に近似した値をもつ第 三系中の天然ガスは、炭鉱坑内の炭層付近からその下位 にかけて湧出してくると考えられるので、これらの天然 ガスを主な対象にして坑内調査を行なったことは前述の とおりである。

遊離ガスとして採取できた3試料のうちの2試料は, ガス成分の大部分が炭層ガスに由来した磯原炭鉱産のも のであり,基盤岩から移動してきたガス成分が天然ガス 成分の大方を占めると考えられるガスは,向洋炭鉱坑内

17 - (317)

地質調査所月報 (第21巻第5号)

200

第4表 常磐炭田多賀地域地下

Analytical data of groundwaters and natural

 側 点	就料採取地	抽 皙	ガス	• 7	k r	ビの産状	ガス量	水量	水温		边	宦離ガ.	ス組成	(vol. %)		
番号								(m ⁸ /d)	(k <i>l</i> /d)	(°C)	He	H ₂	O ₂	N ₂	CH_4	CO ₂
1	北茨城市	磯原 天妃山	駒木断層の上 深度 200m	Air li	ift	で揚	水			19.1	0.005	tr				
2	"	豊田	周辺は白坂層 断層の上	水田	中。	のガ.	ス兆	2~5			0. 01 8	0.00n	1.00	3. 71	94 . 7 4	0. 55
3	"	中妻	"	水田でガ	中レスシ	こ 2 う 化あ	週間前ま り									
4	"	車	"	探炭 ス兆	ボーな	- リ : し	ング・ガ									
5	"	松井の南部	周辺は白坂層	水田	中の	のガ.	ス兆	2~3			0.028	0.004	0.54	4.97	93 . 6 3	0.86
6	"	中郷千手堂	深度約10m	掘井)	戸	中の:	ガス兆	10			(0. 013) 0. 012	(tr) tr	$(0.00) \\ 1.42$	(3.68) 8.72	(95.69) 89.27	(0.63) 0.59
7	"	松井の北西	周辺は白坂層	水田	中(のガ.	ス兆	0.n			0.002	0.002	0.41	47.40	47.10	5.09
8	"	上桜井				"		1~3			0.023	0.003	0.93	8.73	88. 51	1.73
9	"	豊田の北部	周辺は白坂層 断層の上			"		1~3			0.023	0.007	0.21	10.30	85.82	3.67
10	"	和久	周辺は白坂層 および浅貝層			"					(0.022) 0.021	(0.002) 0.002	(0.00) 1.21	(5.50) 9.70	(91.94) 86.68	(2.56) 2.41
11	"	平潟 保養館	亀ノ尾層平潟 断層の上	井戸	の I	中の	ガス兆	0.n	0.014	16.2	0.007	0.001	0.38	6.16	93. 10	0.36
12	"	粟野 鈴木辰男	亀ノ尾層平潟 断層の上			"		4~5		13.6	0.019	tr	0.22	4.65	94.84	0.27
13	"	高井 常陽 タクシー	亀ノ尾層	ガス	兆	なし				14.9						
14	日立市上	相田	多賀層	掘抜 ス兆	井) な	戸・ し	自噴・ガ		86	16.3						
15	多賀郡十 の南	·王町川尻駅	"	湧水	:	ガス	?		96+	14.6						
16	多賀郡十	·王町黒磯 小池栄雄	花崗岩	"	:	ガス	兆なし		15	15.1	(0.001)	<i>(</i> ,)				
17	北茨城市	词神 岡上		水田	中	のガ	ス兆	0.0n			(0.001) 0.001	(tr) tr	(0.00) 4.41	(96.48) 92.80	(0.00) 0.00	(3.52) 2.79
18	"	湯の網	周辺は白坂層			"		3~5			0.007	0.007	0.57	5.27	93.32	0 . 8 4
19	"	下石岡大部	浅貝層	掘抜 m僅	井) か	戸・: にガ	深度約40 スあり	0.00n			0.003	0.00n	0.77	12.58	86.22	0.43
20	"	和久の西部		水田	中	のガ	ス兆	0. 0n			(0. 002) 0. 001	(tr) tr	(0.00) 11.55	(8 9.03) 83.47	(7.09) 3.22	(3. 88) 1. 76
21	"	松井	周辺は白坂層			"		20~30			0.028	0.00n	0.78	5.68	93.45	0.19
22	"	神岡上探炭 40号	多賀層下部	深度	2	20m		0. n~n	75	21.5						
23	"	神岡下の北 西探炭41号		ガス	兆	あり		1.5			0.013	0.001	0.78	15.81	82.98	0.43
24	"	湯の網西部	周辺は白坂層	水田	中	のガ	ス兆	3~4			0.007	0.00m	0.31	5.63	93.67	0.39
25	"	湯の網大作				"					0.007	0.00n	0.44	5.85	93. 34	0.27

常磐炭田多賀地域のヘリウム資源について(牧・本島・佐々木・比留川・永田・影山)

水および天然ガス分析表

gases from Taga region, Jōban coal field

		溶	存	ガ	ス	組	成		5 1. 9	%)						:	地	-	下		7	k (pH	以外は	mg/l)			曲夹
N_2/He	Total		He		H_2	C	D_2	N	2	CH	I4	Ar	N	2/ Ar	рĦ	I	Cl-	HCO ₈	CO_3^2	SO ₄	-	NH_4^+	Ca ²⁺	Mg^{2+}	K+	Na+	1/11 45
	100.00 31.15	50	. 00n ?	0. 0.	015 005	3 1	. 63 . 13	17. 5.	90 57	77. 24.	81 24	$0.65 \\ 0.20$		7.5	7.9	91	,110	406	0.0	4.	8	5.76	34.8	3.63			
206																											
178																											
727	19.83		tr	0.	057	0.	05				ļ				7.	3	24.0	103	0.0	63.	5	0.45	40.3	3.23	3		()空気 補正値
23,700							İ																				
380							ĺ																				
448																											
(250)																											()空気
402	100.00	10	. 000	0.	001	0.	76	16.	19	82.	45	0.6	b														補正值
880	36.85	0	.000 .003	0.	000 ₄ 003	0.	28 88	5. 21.	96 21	30. 77.	39 30	0.2 0.6	2 2: 1	7.0	8.	6	59.0	380	50.7	1.	9	0.95	2.33	0.52	2		
245	36.50	0	. 001	0.	001	0.	32	7.	74	28.	22	0.2	2 34	4.8	7.	6	62.0	154	0.0	40.	5	1.05	38.0	11.1			
	41.44		?	0.	007	0.	16	11.	35	29.	53^{23}	0.4	02	8.5	7.	9]]	163	470	0.0	3.	3	0.92	11.0	2.91			
	18.40		tr	0.	000	0.	23				i				8.	1	12.5	90.2	6.3	3 27.	7	0.72	22. 3	5.33	3		
	20.17					4.	84								7.	2	14.5	255	0.0	45.	6	0.63	77.5	11.1			
	100.00	90	.000	0.	019 004	18	63	79. 15	42	0.	00	1.9	4	0.9	7.	3	9.3	90.2	0.0	7.	1	0.63	15.7	3.0	7		
(96, 480)	10.00	ľ		10.	001			10.			00	0.0		0.0	1		0.0	00.2			1	0.00	10.7	0.01			()空気
92,800	/																										佣正個
758	3 100.00	90	. 000	0.	019	0.	56	13.	. 72	85.	20	0.5	1														
4,193	45.00	Č	. 000	0.	009	0.	25	6.	. 17	38.	35	0.2	32	6.9	8.	6	1,430	129	25.3	3 1.	2	2.60	20.9	4.28	3		
(44, 520) 83, 47(()空気 補正値
203	3																										
	100.00	14 0 : 0	002 0.002	70.	007 002	1. 0.	55 37	77. 18	. 57 . 49	18.	79 48	2.0 0.5	8 03	7.3	8.	6	126	96.4	20. :	3 13.	4	1.86	10.0	2.4	2		
1,216	5																										
.,																											
804	E .																										
836	5									ļ					ļ												

地 質 調 査 所 月 報 (第 21 巻 第 5 号)

測点	- ৮৬ জন		the life	44	質	ガス	•水	など	「の産状	ガス量		水量	水温	遊離ガス組成 (vol. %)						
番号	武 科 :	伏耳	X 11U	19 <u>1</u>						(m ⁸ /d)	/d)	(k <i>l</i> /d)	(°C)	He	H ₂	O ₂	N_2	CH_4	CO ₂	
26	北茨城市	根岸				水田	中の	ガス	兆		10			0.018	0.00n	0.35	5.58	93.65	0.42	
27	北茨城市 鉱泉の前	粟野	関山			深度	500	m		0.0		14.4	17.5							
28	北茨城市 大望荘	粟野 探炭	の北 95号							1	100			0.020	0.005	0.10	3.90	95.83	0.17	
29	北茨城市 探炭31号	神の の近	上 く			水田	中の	ガス	兆	30~	-40			0.013	tr	0.50	5.24	94.03	0.23	
30	北茨城市 探炭9号	天妃 跡	山の北			坑井	のか	ん没	跡	0.0)n			0.004	0.011	0.79	27.21	71.32	0.68	
31	北茨城市 探炭13号	天妃	山の北							0.0)n	n	15.6	(0.006) 0.006	(0.00n) 0.00n	(0.00) 1.51	(37.45) 40.40	(62.22) 57.78	0.33)	
32	北茨城市 日水高井	大津 1号	の北	浅貝層	下部	ガス 13 ai	自噴 tom/	•密 cm ²	閉圧	1,0	000			0.023	0.005	0.15	4.72	94.66	0.47	
33	北茨城市 日水高井	大津 11号	の北	"		ガス 10 at	自噴 com/	•密 cm ²	閉圧	:	300			0.020	0.006	0.58	4.36	95.48	0.08	
34	北茨城市 日水高井	大津 5号	の北	"		ガス 7 atc	自噴 m/c	•密 m ²	閉圧	300	~ 500			0.020	0.004	0.15	3.77	95.57	0.51	
35	北茨城市 日水高井	大津 14号	の北	"		ガス 5 ato	自噴 m/c	• 密 m ²	閉圧	休山	:中			0.015	0.013	0.12	2.90	96.64	0.14	
36	北茨城市 日水高井	大津 16号	の北	"		ガス 13~	自噴 16 a	tom/	閉圧 cm ²	10,	000	相当あ り		0.021	0.004	0.37	3. 55	95.87	0.21	
37	北茨城市 日水高井	大津 19号	の北	"		ガス 13 a	自噴 tom/	(• 窑 ′cm²	閉圧	4,	000			0.022	0.005	0.49	5.10	94.10	0.31	
38	高萩市宮	脇探	炭38号	多賀層	下部	水は し	自噴	t ・ガ	、光な	0.	0	8.7	17.4							
39	高萩市石	滝工	業高校	ξ //		ガス ーナ 1851	兆な 一, n,19	し, 深度 91~1	ストレ 167~ 1,925m	0.	0	掘さく 時 144	18.8							
40	高萩市川	側探	炭7号	石城層	上部	ガス 深度 水は	兆な 450 60~	: し)m -70m	1のもの	0.	0	4.3	17.1							
41	多賀郡十 の南	王町	花貫川	多賀層		掘抜 し	井戸	「・力	「ス兆な	0.	0	8.6	13.9							
42	高萩市下 小学校	手綱	松岡	8 //		掘抜 し	井戸	节•力	「ス兆な	0.	0	6.3	17.4							
43	多賀郡十 19号	王町	探员	42																
44	高萩市上 中学校	手綱 探炭	松岡 8号	0																
45	高萩市高	戸	伊藤宅	61		掘井	戸•	ガフ	、兆なし	0.	0									
46	北茨城市	小野	矢指			掘抜	:井戸	Ŧ		0.	00n	n		0.013	0.002	0.69	97.56	1.67	0.08	
47	北茨城市 探炭48号	磯原	〔神の↓	Ц.						10	0+	0		0.012	0.000	0.04	20.79	78.32	0.85	
48	北茨城市 常磐練炭	「小野 上場	F矢指 J	炭殻の	埋立て	掘井	戸			0.	0									
49	高萩市下	小幡	ê. H	基盤花	2崗岩	湧水	:			0.	0	800	16.7	,						
50	高萩市高 高萩館	ī 萩 駵	マの東			自噴	t•3	度	206m				19.4	ŀ						

() 内数字は, O2=0.00%としての空気補正値

-187

20-(320)

常磐炭田多賀地域のヘリウム資源について(牧・本島・佐々木・比留川・永田・影山)

	溶存ガス組成 (vol. %)							地				下 水 (pH 以外は mg/l)						御去	
N_2/He	Total	He	H_2	O ₂	N ₂	CH_4	Ar	$rac{\mathrm{N_2/}}{\mathrm{Ar}}$	\mathbf{pH}	Cl-	HCO ₈	CO_8^{2-}	SO_4^{2-}	NH_4^+	Ca ²⁺	Mg ²⁺	K+	Na ⁺	加朽
310	100.002 18.24	0.000 0.000	0.022 0.004	1.64 0.30	95.09 17.35	0.65 0.12	2.60 0.47	36.6	8.9	15.4	142	31.7	67.4	1.41	3.46	0.32			
195																			
403																			
6,800																			
(6,240) 6,730	60.15	tr	0.000	0.40					7.6	1,060	225	0.0	18.2	2.74	93.6	6.86	11.2	660	()空気
204									8 9	0 1	36.0	tr	18 7	0 86	11 6	1 70			補止値 地下水
201									0.2	0.1	55.0		15.7	2.00	11.0	1.70			ンの水
218									7.3	30.1	57.9	0.0	15.4	1.21	27.9	1.61			"
189																			
193	100.00	0.000	0 000	0.91	50.05	10 05	0.70												
169	47.90	0.001	0.000	0.15	23.90	23.47	0.79	63.4	8.7	1,690	32.2	25.4	8.9	6.29	49.2	4.24			
232	100.003	tr	0.013 0.003	16.74	40.53	10.00	$1.10 \\ 0.26$	36.8	8.0	9,350	57.8	tr	9.5	13. 57	1,737	25.2			地下水はドレ
	100.009 17.83	$0.015 \\ 0.003$	$0.004 \\ 0.001$	0.62	96.38 17.19	0.40 0.07	2.59 0.46	37.2	8.7	26.0	378	54.5	54.8	0.50	1.46	5 1.61			201
	100.00 19.56	0.000 0.000	0.00n	8.33 1.63	88.92 17.39	0.29 0.06	$2.46 \\ 0.48$	36.1	8.5	20.4	167	19.0	17.2	0.72	14.4	4.20			
	21.37	0. 104 0. 022	0.053 0.011	0.89 0.19	96.06 20.54	0.40 0.08	$2.47 \\ 0.53$	38.9	8.7	587	212	31.7	174	0.78	6. 52	2 1.53	7.4	565	
	100.00	?	?	$\begin{vmatrix} 2.07 \\ 0.40 \end{vmatrix}$	95.33	0.00	2.60	36 7	8 2	15 1	96.5	76	91.9	0 55	24 6	5 97			
	100.011	0.006	0.035	1.35	89.63	6.56	2.43		0.2	70.4	077	44 0	20.0	0.00	0.90				
	19.33	0.001	0.007	0.20	97.09	0.31	2.26	50.8	0.0	79.4	211	44. 3	50.9	2.21	0.50	2.20			
	17.80	0.000	0.000	0.06	17.28 95.41	0.06	0.40 2.42	43.0	8.1	9.9	63.3	3.8	29.5	0.13	19.0	3.07			
	19.70	0.000	0.000	0.27	18.79	0.16	0.48	39.4	8.9	272	271	57.1	75.7	0.10	0.40	1.86			
	20.57	0.000	0.000	3.87	16.21	0.08	0.41	39.2	6.7	105	155	0.0	188	0.28	105	18.2			
7,500	100.016	0.008	0.008	0.50	94.25 18.68	0.54	2.54 0.50	37.1	8.6	339	187	25.4	51.9	3.00	9.8	3.71			
1,730																			
	17.02			0.05	i.				6.4	43.6	193	0.0	668	0.17	146	512.5			
	100.00	tr		7.22	90.07	0.15	2.56	5 34.9	7.4	8.0	74	0.0	15	0.19	17	5.9			
	100.004	0.004		3.19	93.52	0.47	2.82	20.0	8 6	170	515	20	7 5		1 6				
	19.13	0.001	J	0.01	17.91	0.08	0. 34	52.8	0.0	1/2	515	20] 7.5	0.08	1.0	1.4]		

100







第10図 地下水の SO_4^{2-} と NH_4^+ の関係 Relation between SO_4^{2-} and NH_4^+ in groundwaters

から採取した試料 No.5 (第2表)のみである。このガ スは,Heを0.051vol.%含有するN2型のガスで,そ のN2/Heは1,950に達し,常磐炭田の石城北部地域の 炭田ガスがしめす N2/Heの値150~200や,高萩市高戸 の探炭井から産出したガスのN2/Heの値96 (空気補正 値80)と比較しておよそ1桁大きい。さらにNo.5 (向 洋炭鉱)のN2/Arは大きく,その値は414にも達するの で,このガスの大部分は基盤岩から移動してきたものと 考えられる。基盤岩直上にある天然ガスのN2/He比が 大きいことは,そこの天然ガスからHeが優先的に逸散 してしまったか, He 含有量の少ないガスが局部的に基 盤岩から移動してきたかのいずれかであると思われる。

磯原炭鉱の坑内で採取した他の2つの遊離ガス試料 は、He 含有量、N₂/He 共に石城北部地域の炭田ガスの 値とほぼ等しい。すなわち、少なくとも常磐炭田平市付 近から磯原付近までの地域においては基盤岩から移動し た He を含有する N₂型のガスは、ほぼ均一な組成をも つものと考えられる。

坑内水は化学組成の 2 次的変化、とくに空気との接触 による成分の変化および周辺の岩石との化学成分の受 授による変化などがあり、地下水成分について 考察 す る場合には以上のことを十分に考慮する必要 が ある。 $HCO_{3^{-}}, SO_{4^{2-}}$ および Ca^{2+} などはとくにこれらの影響 を受けやすい成分である。

坑内水の化学組成のうちでは、Cl⁻, SO₄²⁻, Ca²⁺/Mg²⁺ について,各炭鉱ごとにそれぞれ含有量に特徴がある。

まず CI- についてみると, すでに述べたように櫛形・ 向洋両炭鉱→重内炭鉱→中郷炭鉱→磯原炭鉱の順に含有 量が増加している。この現象は炭層の地表からの賦存深 度との関連によって理解されることも前述した通りであ り, すでにこのことは佐々木実・永田松三(1964, 1965) によっても指摘されている。磯原炭鉱以外の炭鉱では, 天水の地下への浸透によるガス鉱床の破壊が顕著で,そ こでは坑内水は酸化状態にあることが溶存酸素量などの 分布などからも考えられる。

SO₄^{2−} は磯原炭鉱では少ないが,他の炭鉱では多く, やはり酸化状態にある結果と思われる。

Cl- と SO₄²⁻ の関係を第11図に示す。各炭鉱による特 徴が明確である。

 $Ca^{2+} \ge Mg^{2+}$ の関係は第12図に示す。図でわかるこ とは、中郷炭鉱では Ca^{2+} 量には無関係に Mg^{2+} 量はほ とんど変化がないことである。向洋・磯原両炭鉱では Ca^{2+} 量の増加と共に Mg^{2+} 量も増加し、 Ca^{2+} 量は磯原 炭鉱の方が向洋炭鉱よりも多い注6)。 Ca^{2+}/Mg^{2+} は磯原 炭鉱で8~41の間にあって、大部分は10~20の間を示す のに対して、向洋炭鉱では 0.7~ 6.3にあるが、大部分 は1~2の間に分布し、その値が小さい。

以上に述べた Cl⁻, SO₄²⁻, Ca²⁺, Mg²⁺ などの各成分の 関係から判断すると, 磯原炭鉱は最も強い還元環境にあ るとみられる。このような,各炭鉱の坑内水が保持して いる地化学的状況が遊離ガス中の N₂/He 比に反映され, 磯原炭鉱付近から北で産出する炭田ガスに比較して,そ れよりも南から産出する炭田ガスの N₂/He 比は大き

注6) 向洋炭鉱坑内水は古祠水を除くと Ca²⁺, Mg²⁺ ともに変化が少 ない。



い。

坑内水の溶存ガスが示す N_2 /He 比は、 935 ないし無限大で、遊離ガスが示す値よりも大きい。これには前記の酸化環境が原因している。磯原炭鉱の溶存ガス中に、He が 0.000ないし 0.001vol. % 程度しか含まれていないのは、CH₄による希釈のためであり、また N_2 型の溶存ガスは多くの場合古洞水と関係する産状の地下水にみられ、その主要部分を構成している N_2 は大気に由来するものと思われる。

5.2 地表ガスおよび地下水

地表で採取した遊離の天然ガスをそのガス質と産出頻 度から分類すると、CH4 (75 % 以上) 型のガスが 24 試 料, CH4-N2 型のガスと N2 型のガスがそれぞれ3 試料 である。これらのガス中の CH4% と He%の関係は第 13図に示す通りである。一見して、この関係図から両者 の間に正の相関関係があるように判断される。このこと は,前述の He が基盤岩から N2 ガスと共に逸出して炭 田ガスに混入したとすることと矛盾する。この矛盾のお こる理由は、この調査地域では基盤岩から由来 す る N₂ よりも、大気に由来する N。が全体的にまとめた場合に より強い影響を与えることにある。すなわち調査地域北 部に分布する CH₄ 型のガスが示す N₂/He 比が, N₂ 型 のガスおよび CH4-N2 型のガスのそれよりも小さいこと は、CH4 型のガスは、ガス量が多いために大気 N2 の影 響が少なく、 基盤岩から逸出するガスの №/He 比に近 くなることを現わしている。このことは第14図に示され た N₂% と N₂/He 比の関係図からも明らかである。この 図によると、N₂が 3~16vol.%のガスでは N₂/He 比は 170~1,220の間にあり、いっぽう N2 が 20 vol. % 以上 のガスでは、 試料 No. 46 (小野矢指) を除いて、 N2 % の増加とともに N2/He 比が大きくなり、N2 の増加に対 して He は激減する。これは He を含まない大気の N_2 によってガスが混合されたことを示している。このよう な一般傾向のなかにあって、小野矢指や高戸など、調査 地域の南半部で、N2/He 比が全体よりもやや小さい天 然ガスを産する点は注目される。

CH4 型のガスにおける産ガス量とガス質の関連を大局的に求めてみると、産量が少ないガス徴候地で得られたガス中にHe%が小さく、さらに N2/He 比が大きい。





23-(323)







第14図 地表遊離ガス N2 Vol. % と N2/He の関係 Relation between N2 and N2/He in casinghead gas and seepage gas

このことは、前述した炭田ガスの賦存量とそのガス中に 占める He %の間には逆相関関係がある、という点と相 反する現象である。しかしながら、筆者らが昭和36年に 調査・研究した石城北部地区の炭田ガスにおいても、す でに同様な現象が認められている。この種の現象が観察 される原因として、大気源 № の地下への影響以外に、

地質調査所月報 (第21巻第5号)

ガス層の天然ガスに対する閉塞性の不完全さによってお こる CH₄ に対する He の優先的逸散を,筆者らは重視 したい。

地下水については,一般の水溶性ガス鉱床におけるガ ス付随水で見られるような HCO_3^- 量および NH_4 量 と ガス量との間の相関関係は認められない。地下水の成分 相互の間には NH_4 がわずかに SO_4^{2-} の少ないものに多 い傾向が見られるだけである。 また SO_4^{2-} は 1.2~188 mg/l と多く, Ca^{2+}/Mg^{2+} も本邦における一般地下水と比 較して大きいことなどから,調査地域の地下水は一般に 炭田地帯でみられる地下水の水質を示している。

ガスの産状・組成および地下水の水質から判断して, 地下水の存在場所とガスの生成の場所は異なっており, ガスの大部分はいわゆる水溶性ガスではなく炭層ガスで あると考えられる。

5.3 ガス鉱床と He 資源

調査地域の北部を占める北茨城市北東部の高井および 磯原地域の天然ガスは、牧野登喜男ら(1955),江口元起 ら(1957,1960)によって調査・研究され、また南部の 高萩付近の天然ガスは井島信五郎ら(1956)によって調 査・研究が行なわれている。いっぽう各炭鉱坑内の炭田 ガスすなわちいわゆる炭鉱ガスについては佐々木実ら (1964,1965)によって調査・研究が行なわれている。

調査地域内から産する天然ガスは、いわゆる炭層ガス がその主なものとなっており、その推定根源岩としては 主として石炭をあげることができる。

第1図に示されるように、これら推定根源岩となって いる石炭は採炭会社の手によって採掘・搬出 されてい て、すでに採掘済になっている区域もかなり広く認めら れる。この石炭が採掘されれた既採炭区域は年々その面 積と深さとを拡大しつつある。また調査地域の地層は東 傾斜の単斜構造をなしており、西側の山地には基盤岩と なっている花崗岩と片岩とが分布している。したがって 磯原以南では,採炭状況および地質構造の面などから,ガ ス鉱床としては東部の海岸によった地域が重要と考えら れる。高井区域ではすでにガス開発が活発に行なわれ、 おもに封塞型断層破砕帯あるいは潜丘基盤岩の影響によ る破砕帯の発達している地域に対してガス井の掘削が行 なわれ, 調査当時 20,000m³/d 以上のガスが坑井から採 取され,小名浜の日本水素工業株式会社へ送られて化 学工業原料として利用されていた。このガスは, He を 0.015~0.023vol. % 含有している。

磯原・中郷両区域から産出するガスは、高井区域のガスと比較して N_2 が多く、Heもわずかに多いが、 N_2 に

対する He の割合は小さい。このことは磯原・中郷両区 域のガス賦存量が,高井区域のガス量と比較して少ない ので大気に由来する № が多いためである。

また高萩区域では他の区域と比較して He の含有量は 比較的多いが,ガス量は少ない。

常磐炭田全域にわたるガス組成から判断すると、基盤 岩から逸出する天然ガスは $N_2/He=45$ のガス組成注7)、す なわち He をおよそ 2.2vol. %含有する N_2 型のガスであ ると推察される。いま常磐炭田全域から産出する炭田ガ スの平均 He 含有量を 0.025vol. % とし、総産出量とし て $80,000m^3/d注^8$)を採用すると、純 He 量として $20m^3/d$ が放出されている計算になり、これは He を 2.2vol. % 含有する N_2 型のガス 900m³ に相当する。

以上, He を稼行対象として常磐炭田のガスを見た場 合には、ガス量の多い石城北部地域では He 含有量が $0.02 \sim 0.04$ vol.%と少なく,He 含有量 0.1vol.%以上が 期待される多賀地域南部ではガス賦存量が少なく、これ ら両地域でみる限りでは天然ガスの He 含有量と賦存量 は逆相関関係にあり、He を対象とした大きなガス 鉱床 の存在は常磐炭田においてはあまり期待できない。なお 高萩市高戸の探炭井から採取した CH₄-N₂型のガスの He 含有率 0.59vol.%は、現在までの調査結果では、わ が国の天然ガスについて得られた最高の数値である。

6. 結 論

常磐炭田から産出する天然ガスを、ヘリウム資源の面から検討をすすめた。その際の調査研究資料には、昭和39年の予備調査と本調査で得たもの以外に、昭和36年におこなった野外研究で得たものをあわせて用いた。その結果によると、石城北部地域と、多賀地域北部の高井・磯原間における石城夾炭層から産出する石炭層ガスには、He が 0.02~0.04vol.% 含まれることが多く、そのN₂/He 比は 200前後のものが多い。これらの事実から、炭田全域においてその基盤岩から逸出・移動 する ガスは、比較的均一な He を含有する N₂ 型のものと考えられる。また天然ガス中の He の含有比率は、ガスの賦存

- 注7) 牧 真一・本島公司 (1966):常磐炭田地区の He について,地 球化学討論会講演要旨による。
- 注8) 常磐地区天然ガス開発技術研究会(1962):常磐地区の天然ガス, 第1輯による。

量によって左右され、この両者の間にはほぼ逆相関関係 が成立する。

磯原以南の地域では、比較的 He 含有率の高い天然ガ スが認められたが(地質調査所の資料によると最高0.59 %),その坑口における自噴量は少なく、また産状は水溶 性であって、経済的稼行の対象になるような大きなヘリ ウム鉱床をそこに期待することは困難である。

ヘリウムの立体的分布状況をおもな調査目標にして掘 削される試掘井の位置としては, 基盤岩に由来する He 含有量の多い N₂ 型のガスが炭層ガスによって希釈され ることが少なく,比較的 He を多く含有する天然ガスの 産出が予想される,高萩市高戸区域が適していると思わ れる。

(昭和44年11月稿)

文 献

- 江口元起・鈴木舜一(1952):高萩市付近の天然ガ ス開発利用調査報告,茨城県地下資源調査 報告書, no. 2, p. 1~10
- 江口元起・鈴木舜一・村田広吉(1960) :常磐炭田 南部地区茨城市高井付近の天然ガス鉱床, 東北鉱山, vol. 7, no. 1, p. 1~8
- 井島信五郎・伊田一善・影山邦夫(1956):高萩市 および北茨城市南東部天然ガス,茨城県地 下資源調査報告書, no. 6
- 常磐地区天然ガス開発技術研究会(1962):常磐地 区の天然ガス開発,第1輯
- 牧真一・米谷宏・安藤直行(1969):常磐炭田の天 然ガスに関する地球化学的研究,地質調月, vol. 20, no. 6, p. 29~48
- 牧野登喜男・品田芳二郎(1955):北茨城市北東部 炭田ガス,茨城県地下資源調査報告書, no. 5, p. 1~23
- 佐々木実・永田松三(1964):常磐炭田多賀地区に おける炭田ガスの調査研究報告(I),地質 調月, vol. 15, no. 11, p. 43~54
- 佐々木実・永田松三(1965):常磐炭田多賀地区に おける炭田ガスの調査研究報告(II),地質 調月, vol. 16, no. 10, p. 12~29